



「紫陽花」 撮影:徳田 元

目次

◆医師の紹介/看護師長の紹介2~3	◆「医療安全研修会 ~平成30年度医療安全活動報告~」を開催6
◆当院の診療、手術実績について4	◆外来診察で車いすをご利用になるみなさまへ7
◆理事長・院長講話/綾川村里づくり環境保全会にて講演5	◆新入職員の紹介と入社式/ペット紹介/編集後記8

医療法人秋津会

〽 理念 〽

地域と共生し、活力ある医療をめざします。

〽 基本方針 〽

- 一、 脳疾患の急性期医療を充実させ地域住民の救急救命に貢献します。
- 一、 地域医療連携を深め患者様の社会生活・在宅復帰を支援します。
- 一、 患者様の権利を尊重し、説明と同意に基づいた安心と満足の医療を提供します。
- 一、 職員の職業倫理、法令遵守の精神を涵養して、組織を支える人材の育成に努めます。

〽 職業倫理規定 〽

当院職員は、医療人としての社会的使命・職責の重大性を認識し、当院すべての職種に求められる職業倫理を以下のように定めます。

- 一、 医療を受ける患者様の権利と人格を常に尊重します。
- 一、 ホスピタリティの心で患者様の立場に立ち信頼されるように努めます。
- 一、 知識と技術の習得向上のために、常に生涯学習を行います。
- 一、 他職種との相互尊重で協力関係を保ちチーム医療を向上させます。
- 一、 医療の公共性と安全性を重んじ、法規範を遵守した運営に努めます。

〽 患者様の権利と責務 〽

- 一、 公平な医療を受ける権利
- 一、 十分な説明を受ける権利
- 一、 医療に関して自ら決定する権利
- 一、 個人情報保護と開示を求める権利
- 一、 当院の最善の医療を受ける権利
- 一、 良い治療のために私たち医療従事者と協力する責務



井上 博 貴
井上 博 貴

皆さんはじめまして。この春に脳外科レジデントとして赴任致しました、井上博貴(いのうえひろたか)と

申します。平成が終わり、令和が始まる大きな節目の年を徳田脳神経外科病院で迎えることになり、身の引き締まる思いと共に、自分自身の脳外科人生においても大きく飛躍する年になるのではないかと、という期待を胸に鹿屋の地にやってきました。

まずは簡単な自己紹介をさせていただきます。前任の坪木先生と一緒に熊本大学を卒業した後、東京で2年間の研修医生活を満喫しました。その後の進路には多少の迷いありましたが、熊本大学脳神経外科に入局しました。熊本大学入局を選択したのは、地元であること以上に、坪木先生の存在が大きかったように思います。学生時代は特に仲が良いという訳ではありませんでしたが、お互いに脳神経外科の道に進むことは決めていたので、同じ志を持ち、情熱を注ぐものとして私の中では既に大きな存在でした。彼とならお互いに切磋琢磨していきけるはずだ、と思い決断しましたが、この選択はやはり間違っていないかと感じています。ただ、仕事のスタイルにおいては坪木先生と私は正反対です。そつなく、キレのある立ち回りを魅せる坪木先生とは違い、私は客観的に見ても泥臭さ全開なタイプだと思います。したがって当面の目標は、PassionとToughnessの面で昨年度の彼を上回っていくこととしたいと思います。忙し

そうにしているても、気楽にお声かけ下さい。次に、私の趣味についてお話しします。高校

から大学まで硬式テニス部に所属し、そのほとんどをテニスコートで過ごしましたが、同時期に漫才もかじっておりました。じゃあ今ここで何かやってみせてよ、と言われてしまうとちよつと弱ってしまいますが、私も漫才をやっています、という奇特な経歴をお持ちの方がいらっしゃれば、是非語り合いたいです。もちろんテニスのお誘いも大歓迎です。

私の前任地は人吉市という、熊本市と鹿屋市の中間付近に位置する町でした。東京↓熊本市↓人吉市↓鹿屋市と毎年少しずつ南下していく私をみて、東京の研修医時代の同期の間では、「井上は何かしら大きなミスをしたに違いない」と根も葉もない噂話が出回っているようです。確かに思い当たる粗相もない訳ではないですが、しかし、実はここ徳田脳神経外科病院は、医局のレジデントの中では1、2を争う人気病院なのです。私も、もちろん坪木先生も希望が叶ってこの病院に赴任しました。その人気の理由は、スタッフの皆様が働きやすい環境を整えて頂けるといふ点はもちろんのこと、非常勤・外勤の先生方も含め数多くの上級医の先生方から指導を頂く機会に恵まれ、かつそれを独り占めに出来る点だと思います。特に橋口先生からマンツーマンで手術の手解きを受けられるのは、私にとってまたとないチャンスです。この2週間だけでも数多くの手術を勉強する機会、また執刀する機会に恵まれ、早々と充実感を感じています。病棟や医局での働きやすさも、噂通りで本当に助かっています。そんな魅力溢れるここ徳田脳神経外科病院で、平成最後の、そして令和最初の脳外科レジデントとして、記憶にも記録にも残るような1年間を駆け抜けたと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



(左)3F師長・村山、(右)2F師長・川原

2階病棟看護師長 川原 奈穂子

4月に、2階病棟看護師長を拜命致しました。

慣れない師長業務を、上司始め主任やスタッフの協力の下、日々、今までは違う責任の重さを実感しています。また、長い間看護師を続けてこられたのも、皆様の導きや支え、そして家族の協力があつたからだと感謝しております。

2階病棟は、急性期病棟で「患者様の、人権を尊重し安心安全な看護提供をします」の看護理念の基、ホスピタリティ精神を大切に、個性のある看護の提供を目標に頑張っています。病棟の特徴としては、意識障害、運動麻痺、失語症、機能障害等の患者様が多く入院されます。信頼して治療を受けられる環境づくりや、早期より多職種と連携しリハビリテーションと日常生活再獲得や、在宅復帰を意識したアプローチを行っています。何より、患者様、ご家族の思いを大切にしながら、知識・技術は勿論ですが、



医師 日高史郎

私は、平成31年3月31日をもって、県民健康プラザ鹿屋医療センターを定年退職しました。昭和47年3月に高校を卒業後、九州大学工

学部に入學しました。3年間で中退し、1年間予備校に通いました。昭和51年同級生より、4年遅れて、鹿児島大学に入學しました。昭和57年に卒業しましたが、途中留年の危機に遭いました。病理の試験でウイルス腫瘍でした。副腎が移っており、臓器を腎臓と書くべきところ、副腎と書いたため、試験に落ちました。最終面接まで行きましたが、その時の試験が肺炎菌症で基礎疾患が髄芽腫でした。肺炎菌症と髄芽腫と答えました。これしか知りませんでしたから。何とかクリアし、無事卒業できました。国家試験もクリア。当時の第一内科(循環器、血液・膠原病、糖尿病・内分泌、心療内科)に入局しました。当初は膠原病を専門にしたいと思いましたが、指導医の関係で、血液疾患をすることになりました。県立鹿屋病院には、一時出張で、昭和60年6月1日より昭和61年8月31日まで1年3ヶ月、内科部長として、平成11年10月1日から12月31日まで3ヶ月勤務し、その後出水市立病院(現、出水総合医療センター)に異動、平成19年9月30日まで勤務し、平成19年10月1日に鹿屋医療センターに戻ってまいりました。平成21年4月からは院長に就任しました。月に1回県庁で、経営会議が開かれ、経営状態のチェックがなされます。当時の鹿屋医療センターは整形外科と耳鼻咽喉科が休診となり、経営はあまり芳しくありませんでした。それから10年6ヶ月の合計12年間勤務したことになります。この間、大学の医局は臓器別に編成され、より専門的な医療がなされるようになりました。私の所属していた旧第一内科は心臓血管・高血圧内科、心療内科、血液・膠原病内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科の5つの診療科に別れました。新研修制度の導入により、所属医局員の減少等

により、派遣される医師数も減り、出張先も縮小される病院が出てきました。その影響で、我々も出水総合医療センターから鹿屋医療センターへ異動となったわけです。平成20年4月1日からは前中尾止一郎院長の後任となりました。病院の経営や診療体制の整備など経験したことのない業務が続きました。地域の医療に関しましては、前院長や医師会の先生の協力もあり、鹿屋方式と言われる連携体制がつけられて、非常に革新的と思われました。

自分の診療としては血液疾患や膠原病患者を対象にしてみました。なかなか経験のない症例も多く、緊張の連続でした。新規治療薬の開発により、治療の成績も向上している疾患もあります。特に、慢性骨髄性白血病においては、内服薬で治療し、治療をやめても寛解状態を維持することができるようになっていきます。

私の体調は、7年前、ウイルス性と思われる心筋症にて心不全を起し、40日休職しました。3年前には網膜剥離の手術も受けました。体力的にはかなり落ちています。30代運動すると息が切れる、運動不足だな、40代運動すると怪我をする(骨折)、運動神経も鈍ってきたなど思っていました。50代仰向けに寝ると動悸、喘鳴がする(起座呼吸)、ああ心不全。知らぬ間に先人が歩んできた道と同じ道を歩んでいる。今後同じ道しか歩まないのだろうかと思われま

す。病院勤務の間に出会った人達から、学ぶことの連続でした。この間、自分では気づかないうちに迷惑をかけることが多かったことと、思い直します。改めて感謝申し上げます。御礼申し上げます。今後も自分の体力、知力の続く限りは地域の医療に貢献していきたいと思

います。当院へ勤務するきっかけはある人の電話でした。鹿屋医療センターで以前働いていた中宮副院長先生でした。他に安山管理部長、市井川事務部長も勤務しており、また諸木名誉院長、新名主先生とも前から顔見知りだったので働きやすいのではないかと思つたからです。慣れないことばかりで戸惑うこと、ご迷惑をかけるかもしれないかもしれませんが、ご迷惑をかけるか、ジャレに笑わないでください。受けてると、思い、図に乗りますから。

スタッフがいきいきと働ける環境が大切と考えています。

師長として、スタッフ一人ひとりの日標達成にむけて支援し、看護の質の向上につながるよう努力していきたいと思っています。

3階病棟看護師長 村山 育美

私は看護師になり、25年が経ちます。医療従事者として働き始め、前職場での経験を活かせる場所だと、当院へ入職いたしました。

看護師経験の大半を当院で過ごす事が出来たのは、上司の方々はじめ、たくさんの方々に支えられたおかげだと思っています。

2018年8月から回復期病棟師長の任命を受けました。今までは違う責任の重さを日々感じていました。

回復期病棟はリハビリテーションを主体とし、在宅・社会復帰を目指す病棟です。私は、病棟管理者として次の事を日標としています。

①患者：家族が安心して療養できる環境作り、安心して退院を迎えられるようにサポートする事。

②病棟スタッフ、コメディカル、回復期病棟に関する福祉関係の方々との関わりと連携を大切にすること。

③病棟スタッフのスキルアップの支援を行い、それぞれの能力を発揮でき自信をもつて活躍できる職場環境作り。

この3つを目標とすることで、質の高い看護ケア・サービスの提供に繋がれると思っています。

また、患者・家族の事を最優先に考え、日々精進していく事を日標に努力していきたいと思っています。

当院の診療、手術実績について

平成30年1月1日～12月31日までの
外来・入院患者様の診療、手術実績についてご報告致します。

【診療実績】

	実績	コメント
1日平均外来患者数	87.9名	年間の外来患者様の人数を診療日数で割り、1日平均の外来患者数を示しています。
1日平均入院患者数	65.5人	年間の延べ入院患者数を診療日数で割り、1日平均の入院患者数を示しています。
平均在院日数	(急性期) 14.58日	病院全体で1人1人の患者様の平均的な入院日数を示しています。病気を発症した直後の急性期と、リハビリを主に行う回復期では日数に違いがあります。
	(回復期) 46.10日	
平均病床稼働率	(急性期) 91.75%	病床が効率的に稼働しているかを示す指標です。100%に近いほど空床が無い状態となりますが、当院は急性期医療を専門とするため、常に利用可能な病床を確保する必要があります。
	(回復期) 95.43%	
救急患者実績	903名	日中、夜間、休日に救急車を利用して来院された患者数

【手術実績】

全手術件数・・・183件

(主要手術)	実績	コメント
開頭動脈瘤クリッピング術	34件	頭蓋骨を開けて、破裂した動脈瘤もしくは破裂前の動脈瘤の根元を専用のクリップで直接遮断します。
開頭血腫除去術	8件	頭蓋骨を開けて、脳の中の血腫を取り除き、脳への圧迫を防ぎます。(試験開頭含む)
開頭腫瘍摘出術	3件	頭蓋骨を開けて、脳の中の腫瘍を取り除きます。
頭蓋内微小血管減圧術	4件	内服治療で制御困難な顔面の激しい痛みやビクツキに対し、該当神経の圧迫除去により治します。
バイパス術等	2件	脳動脈の狭窄・閉塞による血流低下に対して、頭皮動脈などを用いたバイパス術を行います。
経皮的脳血栓回収術	2件	カテーテルを用いて脳血管を閉塞している血栓を除去する手術です。
頸動脈内膜剥離術	26件	細くなった頸動脈を直接切開し、動脈硬化で厚くなった血管壁(内膜)を取り除く手術です。
穿頭血腫除去術	58件	局所麻酔下で頭蓋骨に小さな穴をあけて、血腫を除去します。
水頭症手術	30件	脳室やくも膜下腔に貯留した脳脊髄液を、体外または腹腔、心臓内に排出させる方法です。
脊椎関連手術	1件	脊椎の前方あるいは後方よりアプローチし、病変を除去あるいはその圧迫を解消する手術です。

理事長・院長講話

平成31年4月25日に理事長と院長の新年度講話があり、職員108名が参加しました。

最初に理事長から「患者中心の医療の提供と質の向上など病院のビジョンとして『Patient First』の追求」、「医療者は患者さんから常に評価されていること」、「地域で選ばれる病院」などを内容とした講話がありました。

続いて院長から、当院を取り巻く環境や診療実績、第7次中長期事業計画の説明の後に、「組織管理体制の充実」、「医療の質・サービスの向上」、「健全経営体制の確立」の3項目を柱とした23期の運営目標等について講話がありました。

大隅地域住民の方々に貢献できる病院を目指し、「チーム徳田」でこの一年間取り組んでいきたいと思えます。



祓川村里づくり環境保全会にて講演

祓川町の祓川村里づくり環境保全会様では、農繁期間近となった4月21日(日)、「脳卒中についての知識を学ぶ会」が開催され、諸木医師が「脳卒中の現状」をテーマに講演致しました。

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血それぞれの症状や治療方法、予防法について40分程の講演を行い、終了後には、普段気にされているご自身の体の症状等についてのご質問も頂きました。

今回講演の機会を頂きました、祓川村里づくり環境保全会様に深く感謝致します。誠に有り難うございました。



脳卒中 出前講座

当院では、地域の皆さまに脳卒中やその原因となる生活習慣病についてご理解いただくことを目的に、脳神経外科医が講師として、ご希望の地域にお伺いする「出前講座」を開催しています。脳の専門家による健康を保つ秘訣や、いざという時に役立つ知識を学んで日々の健康づくりにご活用下さい。

～ 開催について ～

日程：出来るだけご希望に沿うように調整させて頂きます。

時間：質疑応答含め、1時間ほど

場所：地域の皆さまが参加しやすい場所（公民館等）をお願いします。

費用：無料

※講演に必要な映像機器等は持参します。



お問い合わせ

徳田脳神経外科病院
【電話】0994-44-1119
【担当】地域連携室 安楽

医療安全研修会

～平成30年度医療安全活動報告～ を開催

3月28日(木)、全職員を対象に平成30年度医療安全活動内容を報告しました。

これまでの医療安全は、手順通りに行われずにインシデントが発生した報告や、リスクの放置等が原因でインシデントが発生した報告などが主でしたが、これからの医療安全は、手順通りに行うことは当たり前のことで、今後の経過を自ら考え臨機応変に対処する能力を向上させることが大切だと言われています。

起こりうるリスクを早期に気づき対処しミスを防ぐ事ができた事例を「患者影響度レベル0」として、職員が情報共有することで重大事故を防ぎ、安心安全な医療を提供する事ができます。

※インシデント：患者様に被害は及んでいないが、「ヒヤリ」、「ハッ」とした経験を有する事例
アクシデント：医療の全過程において患者様に被害が及び、既に損害が発生しているもの



医療安全管理室
田畑 室長

セーフティーマネジメント部会では、下記の3チームが活動しており、活動内容を報告しました。

● 薬剤事故防止対策チーム

患者様に安心安全な医療を提供するために、医療者側は決められたルールを遵守することはもちろんの事であり、一人ひとりが薬剤に対する知識を深めるために常に学習することの大切さを改めて感じています。病院にある一番リスクの高いものは薬剤であると言われています。『ク・ス・リ は リ・ス・ク』とも言われ、安全な医薬品使用のため6つの確認事項があります（①正しい患者、②正しい薬剤、③正しい目的、④正しい用量、⑤正しい用法、⑥正しい時間）。

薬剤の取扱い時は緊張感を持ち業務を行い、事故防止に取り組んで参ります。



● 転倒転落事故防止対策チーム

入院される患者様の年齢や疾患の性質上、転倒リスクが高くなってしまいう傾向にあります。安全な入院生活につなげるためにもセーフティーマネジメント部会、看護部事故防止対策委員会を通じて対策を検討してきました。

原因の分析や予防措置の検討など行ってきて感じたことは、報告書の重要性です。小さな事例でも報告することによって未然に事故を防ぐことにつなげることが出来ます。また、多職種で情報共有することで、さらなる医療安全、事故防止への意識を高めることができることを今回の活動を通して学ぶことができました。



● 5S活動チーム

年間を通して5S活動の意識付けを強化するための病棟勉強会開催や、院内ラウンドの強化（水回り、コード類、病棟、車椅子、ベッド等）を実施しました。その実施結果を踏まえて、今後予定されている新病院建設に向け4つの提案を行いました。①湿気やカビ対策、②収納場所の確保、③汚れにくい素材の採用、④モノが当たっても壊れにくい工夫。

最後に「5S」は業務効率や感染管理だけでなく、患者様やご家族に当院を選んで頂く選択肢の1つという気持ちで、日々業務にあたるよう全職員へお願いしました。



外来診察で車いすをご利用になるみなさまへ

当院では外来診察用として、車いすをご用意しております。
 体調が悪く歩く事ができない、長い距離歩くのは大変…などございましたら、ご自由にお使いください。
 車いすは、病院入口・MRI室横に設置しております。
 車いすが不足してございましたら、お手数ですが受付までお声かけください。

病院玄関



①番MRI室横



車いすの使用方法と注意点

(使用前)

<p>①両側のブレーキをかけ、アームレスト（肘掛け）を持って少し外側に開きます。</p>	<p>②手のひらでシートの両端を押し広げます。 （上から押せば開きます。） 指を挟まれないように注意！</p>	<p>③着席してからフットレスト（足乗せ）を下ろします。座る前に足を乗せるといすが跳ね上がり危険です！！</p>

(使用后)

<p>1)両側のブレーキをかけ、フットレストを上げます。</p>	<p>2)シートの中央を持ち上げます。 （上に引き上げればいすは閉じます。）</p>	<p>3)完全に折りたたみます。</p>

使用中車いすを動かさない時は、必ず両側のブレーキをかけましょう。
 （ブレーキをしないまま立ち上がると、車いすが動き、転倒の危険があります。）
 車いすに座ったり立ち上がる際は、必ずフットレスト（足乗せ）を上げておこなってください。

新入職員の紹介

所属

2階内科 看護師

氏名

水流 ありす

趣味・特技

散歩、映画鑑賞、
観光スポットめぐり

ひとこと

看護師として、多くのことを学べるように頑張ります。未熟ですが、よろしくお願いたします。



所属

3階内科 看護師

氏名

濱脇 紫帆

趣味・特技

ドライブ、映画鑑賞、
料理、音楽を聞くこと

ひとこと

笑顔を忘れず常に患者様により添った、信頼される看護師になれるよう頑張りたいです。



所属

リハビリテーション室
理学療法士

氏名

寺崎 詩織

趣味・特技

旅行、ミュージカル鑑賞、
外遊び

ひとこと

鹿児島弁を勉強中です。みなさん、
教えてください!



所属

薬剤科

氏名

中村 千明

趣味・特技

音楽、ビデオ鑑賞

ひとこと

至らない部分、多々あると思いますが、
早く仕事をおぼえて、笑顔で頑張ります。



新入職員入社式、オリエンテーションを実施

4月1日、6名の新入職員を迎え、入社式を実施しました。

理事長、院長挨拶の後、新入職員へ辞令が交付され、その後は病院概況や各部業務内容の紹介、院内見学、車椅子乗降時の介助方法等の研修を受けました。

また今年も"とくだアグリファーム"では新名主先生ご指導の下、1人1鉢ずつバラの記念植栽が行われました。



編集後記

元号が平成から「令和」へ変わり、新たな時代が幕開けしました。

令和元年、生活そのものが何か変わるわけではありませんが、気分も新たに何か始めてみるきっかけにはなるかもしれません。

新年度が始まり当院も新たな職員を迎え、新たな時代を歩んで参りたいと思います。

(安楽)



「らぶちゃんと陽くん」

らぶちゃん(ミニチュアダックス 2015.10.12生)

陽くん(トイプードル 2016.11.23生)

2匹とも京都で生まれ、遥々我が家へ

日々上手な「らぶ」、日々下手な「陽」

性格はそれぞれですが、癒されていまーす。

【飼い主】外來 加治木和美



診療予約についてお知らせ

かねてより診療時には長時間お待たせして、大変ご迷惑をおかけしております。

当院では、外来での待ち時間を極力短くするために、再来診察のみを予約制としております。外来診療終了時に次回の受診予約を入れますので、医師と相談の上、日時を決めて下さい。その際、診療予約票をお渡ししますので、次回の診療時にご持参ください。

なお、担当医師の希望がありましたら、遠慮無く外来看護師へ声をかけてください。

病院長

○当院では下記の通り曜日別に外来診療担当医が変わります。

外来診療予定表

(2019.4.1)

	月	火	水	木	金	土
外来診療担当医師	徳田	徳田	橋口	徳田	徳田	ます
	諸木	諸木	諸木	諸木	諸木	にてお知ら
	新名主	新名主	新名主	新名主	橋口	せいたし
	橋口	井上 (手術日)		井上 (手術日)		受付前の月間予定表

*手術、検査などにより変更される場合があります。
不明な点がございましたら、受付へおたずね下さい。



医療法人 秋津会

徳田脳神経外科病院 通所リハビリテーション とくだ居宅介護支援事業所

〒893-0011 鹿児島県鹿屋市打馬1-11248-1
TEL.0994-44-1119(代)/FAX.0994-40-3155
<https://tokuda-hp.com/>

診療時間

平日 午前8:30~12:00 午後2:00~5:30

土曜 午前8:30~12:30 (土曜日午後・日曜日・祝祭日は休診)

※救急は、24時間365日
いつでも対応いたします。

毎月健康保険証の確認をさせて頂いております。月初めの来院日には保険証の提出をお願い致します。また、保険変更等ありましたら早めに受付までお知らせ下さい。

面会時間

午前10:00~午後8:00

